

Syllabus Id	syl.-112332
Subject Id	sub-112007700
更新履歴	20110326 新規
授業科目名	日本語 Japanese
担当教員名	高澤 啓子 Takasawa Keiko
対象クラス	留学生 5年生
単位数	1履修単位
必修/選択	必修
開講時期	通年
授業区分	語学
授業形態	講義
実施場所	留学生選択教室

授業の概要(本教科の工学的、社会的あるいは産業的意味)

長い留学生活を送るためには「生活に必要な日本語」「人間関係をつくるために必要な日本語」「学業に必要な日本語」がどれも必要となる。いまや高い知識と能力、技術があれば、日本人も外国人も同じ条件で進学・就職が可能な「国際人材時代」となっている中で、留学生にはより高い日本語能力が求められる。上級レベルになり表現力がつくと、丁寧さにおいても運用面での使い分けが要求されるようになる。対人関係の発展に重要な待遇表現を見直し、それぞれの立場や状況で期待されるコミュニケーションが持てるようになることを目指し、文法上・用法上のルール、待遇レベルの判断を左右する要素について考え、場面に応じた使い方とふさわしい表現を学ぶ。

前期の初めでは、日本の大学に編入学する際の進学と奨学金のための面接練習をする。

準備学習(この授業を受講するときに前提となる知識)

日本語能力試験N2～N1レベル程度の日本語能力、日本事情(文化・生活・習慣)

学習・教育目標	Weight	目標	説明
		A	工学倫理の自覚と多面的考察力の養成
		B	社会要請に応えられる工学基礎学力の養成
		C	工学専門知識の創造的活用能力の養成
		D	国際的な受信・発信能力の養成
		E	産業現場における実務への対応能力と、自覚的に自己研鑽を継続できる能力の養成
D 日本語による表現能力、コミュニケーション能力を養う。異文化理解。			
学習・教育目標の達成度検査	<ol style="list-style-type: none"> 該当する学習・教育目標についての達成度検査を、年度末の目標達成度試験を持って行う。 プログラム教科目の修得と、目標達成度試験の合格を持って当該する学習・教育目標の達成とする。 目標達成度試験の実施要領は別に定める。 		

授業目標

自分の立場、話す相手、周囲の状況に応じてふさわしい表現が選べる。知識として得た用語と表現を使用して実際にコミュニケーションが出来る。「日本(人・社会)」という異文化を理解しカルチャーショックを克服出来る。

授業計画(プログラム授業は原則としてプログラム教員が自由に参観できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)

回	メインテーマ	サブテーマ	参観
第1回	前期オリエンテーション	授業概要、評価基準等の説明。地震と防災について。	
第2回	面接	進学と奨学金応募のための面接練習	
第3回	面接	進学と奨学金応募のための面接練習	
第4回	面接	進学と奨学金応募のための面接練習	
第5回	面接	進学と奨学金応募のための面接練習	
第6回	面接	進学と奨学金応募のための面接練習	
第7回	面接	進学と奨学金応募のための面接練習	
第8回	前期中間試験	まとめ 復習	

第9回	自動詞・他動詞	自動詞・他動詞の形と意味	
第10回	自動詞・他動詞	自動詞・他動詞の機能	
第11回	自動詞・他動詞	自動詞・他動詞の使い方	
第12回	自動詞・他動詞	慣用表現	
第13回	自動詞・他動詞	形が似ている動詞	
第14回	自動詞・他動詞	総合練習	
第15回	使役	(さ)せるの意味と機能	×
第16回	使役	(さ)せるの比喩的表現	
第17回	前期末試験	まとめ 復習	
第18回	受身	(ら)れるの意味と機能	
第19回	受身	(ら)れるの使い方	
第20回	テーマ学習	高専祭参加(展示発表)準備	
第21回	テーマ学習	高専祭参加(展示発表)準備	
第22回	テーマ学習	高専祭参加(展示発表)準備	
第23回	テーマ学習	高専祭参加(展示発表)準備	
第24回	待遇表現と使い方	ございます、丁寧化できる従属節	
第25回	待遇表現と使い方	接辞	
第26回	後期中間試験	まとめ 復習	
第27回	待遇表現と使い方	人を表す表現、動詞・形容詞以外のあらたまった表現	
第28回	待遇表現と使い方	授受表現の形と使い方	
第29回	待遇表現と使い方	授受表現の様々な用法	
第30回	待遇表現と使い方	丁寧体と普通体の使い分け	
第30回	待遇表現の場面	依頼する	
第30回	待遇表現の場面	依頼を承諾する、依頼を断る	
第30回	待遇表現の場面	文句・苦情・不満を言う	
第30回	後期末試験	まとめ 復習	×

課題

1. 沼津国際交流協会スピーチコンテスト「日本語の部」参加、自由テーマの作文提出のうちいずれか一つ選択。の提出期限：11月の最終授業
2. 高専祭参加：初対面の日本人に、自分の国を紹介する

評価方法と基準

評価方法

試験、課題、授業に臨む姿勢等を総合的に評価

評価基準

前期・後期(試験50%, 課題・提出物30%, 出席・授業態度20%)

学年末評価(前期40%, 後期40%, 課題20%)

教科書等	安藤節子・小川誉子美著、日本語文法演習『自動詞・他動詞、使役、受身』ポイス、小川誉子美・前田直子著、日本語文法演習『敬語を中心とした対人関係の表現』待遇表現、(ZII-ネットワーク)¥1,300+税、 『進学と奨学金応募のための面接設問集(過去の沼津高専留学生が面接時に受けた質問)』その他必要に応じて教員が用意した資料
先修科目	日本語中級、日本事情、
関連サイトのURL	
授業アンケートへの対応	
備考	1. 試験や課題レポート等は、JABEE、大学評価・学位授与機構、文部科学省の教育実施検査に使用することがあります。 2. 授業参観されるプログラム教員は当該授業が行われる少なくとも1週間前に教科目担当教員へ連絡してください。 3. 習熟度に合わせてシラパスの変更を行うことがあります。